

2016 年度

中国留学報告書

留学先：北京師範大学

留学期間：2016年8月29日（月）～2017年1月7日（土）

新潟国際情報大学
国際文化学科
学籍番号：21015078
館 海香子

目次

1	留学先	3
2	留学先概要	3
3	留学目的	3
4	留学内容	4
	4 - 1 留学のスケジュール	4
	4 - 2 留学の詳細	5
5	所感	6
6	おわりに	7
	謝辞	7

付録

	留学日誌	8
--	------	---

1 留学先及び実習期間

留学先：北京師範大学 漢語文化学院

留学期間：平成 28 年 8 月 29 日（月）～平成 28 年 1 月 6 日（金）

※帰国は 1 月 7 日（土）

2 留学先概要

(1)大学について

北京師範大学は中国の首都北京に位置する。北京は人口約 2150 万人の上海に次ぐ第二の大都市であり、主に中国の政治の中心である。北京師範大学は 1902 年に設立され 100 年以上の歴史を持っており、北京大学や清華大学と並び中国政府から指定された重点大学の一つである。15 の学院、12 の学部、12 の学術研究所を持つ総合大学であり、現在は約 25000 人の学生が学んでいる。中でも教育系についての研究が盛んであり、外国の留学生や研究者に対する中国語・中国文化の教育には優れた経験と実績を持っている。卒業生には魯迅をはじめ多くの著名人が世に輩出されている。

(2)大学で行われている教育について

北京師範大学は前述のとおり留学生に対する中国語・中国文化の教育について中国国内トップクラスの実績を持っている。今回の留学でお世話になる漢語文化学院では、留学生は授業開始前に中国語の能力テストが行われ成績に応じてクラスが分けられる。クラスの人数は 20 人以下の少人数となっており、学生一人一人に教育の手が届きやすくなっているため、学生は自身にあった語学レベルのクラスの中でじっくりと学ぶことができる。

授業はリーディング・スピーキング・リスニングの 3 種類の授業があるが、新潟国際情報大学ではそれらとは別に新潟国際情報大学の学生のみが受講する特別講義が設置されている。それらの授業では日中交流や中国文化について学ぶことができ、教養をさらに高めることができる。

3 留学目的

今回の留学の目的は、中国語の語学レベルの向上と中国文化を学ぶことを通して国際社会を理解するということである。国際文化学科の学生は 1 年生の後期に語学選択を行い、選択言語について学ぶこととなる。しかし、語学の授業は週に 3 コマしかないため卒業までに日常会話が可能な語学レベルまでに上達することは難しい。留学することで、4 か月という短い期間ではあるが中国語の飛び交う環境に身を置くことで語学レベルを急速に向上させることができると感じた。現在中国は急速に経済発展を遂げており、中国に進出する日本の企業は発展に比例して増えている。そこで企業は現地等でコミュニケーションをとることができる中国語を話せる人材を求めている。だから、中国語を就職活動の際の有益な能力とするため、日常会話ができるほどの語学レベルとなるために語学向上を目的とした。

また、留学は国際社会を理解するうえで非常に重要な機会である。留学は語学を学ぶだけでなくその国の文化を学ぶことができることも魅力の一つである。現地での長期滞在では日常会話の上達だけでなく、自国との文化の違いをはっきりと示されるということを経験する。そのとき中国の文化・伝統を肌で感じ、同時に文化の違う中国という国を理解できる。また各国の留学生と中国語を通して交流することで、そこから見える国際社会を学ぶことを目標とした。

4 留学内容

以下から留学の内容を記述する。

留学期間中に行った活動の詳細は付録に記載する。

4 - 1 留学のスケジュール

留学期間中の主なスケジュールは以下のとおりである。

月	日(曜日)	午前	午後
8	29(月)		到着、入寮
	30(火)	新入生登録	
9	1(木)		新入生クラス分けテスト (筆記・面接)
	2(金)	入学式	
	4(日)	テキスト購入	
	5(月)	授業開始	
	9(金)		師範大学日本語学科の学生との交流会
	15(木)～ 18(日)	中秋節(休暇)	
10	1(土)～ 10(月)	国慶節(休暇) ※内モンゴル旅行(個人・希望者)	
	3(木)～ 4(金)	中間テスト	
11	5(土)～ 10(木)	河南省旅行(大学主催・希望者)	
	12(土)	北京の夜(予選)	
	13(日)	文化交流節	
	18(日)		北京の夜
12	29(木)～ 30(金)	期末テスト	
	1(1月)6(金)		修了式

	7 (土)	帰国	
--	-------	----	--

4 - 2 留学の詳細

スケジュールの詳細は以下のとおりである。

i) 授業

① 读写

リーディングの授業である。課ごとに分かれており、単語・文法学習し教科書の文を読解するという授業であった。時々「听写」という単語の書き取りテストが行われた。

② 会話

スピーキングの授業である。リーディング同様教科書を用いて学習するが、新出単語や文法を学習した後それらの単語や文法を用いてクラスメートと会話や討論を行った。また週に一回程度、旅行や行事など様々なトピックが先生から与えられそれらについて授業の中で発表するというものがあった。発表はすべて中国語であり学習した単語・文法を活用して文章を構成した。

③ 听力

リスニングの授業である。教科書に学習する文は載っているが、授業中はそれを見ずに先生が流すCDを聞きながらどのような内容であるか理解するという授業であった。この授業では予め新出単語と文法を自身である程度予習して授業に臨むことが重要であった。

④ 看报

新潟国際情報大学の学生のための特別講義であり、中国の新聞を読解する授業である。テキストに載っている中国語の新聞を単語・文法を習いながら読解した。読解後は少人数のグループに分かれ、学習した単語・文法を用い短文を作成した。また、二週間に一度各自が中国語の新聞を読解し、要約や新聞に対する意見をレポートとして提出するという課題があった。そして代表者がそのレポートを発表した。

⑤ 中日文化交流

前述の講義と同様、国情生のための特別講義であり中国と日本の文化交流を学ぶ授業であった。この授業の先生は日本語が堪能であり、日本語の文を中国語に翻訳した。また、各週代表者が一人日本と中国に関係の深かった人物を、パワーポイントを用い紹介した。留学先の授業の中で唯一、日本語を用いながらの授業であった。

⑥ 太极拳

前述の講義と同様、国情生のための特別講義であり太極拳の授業であった。屋外での授業

であり、武術部の学生から指導していただいた。太極拳の他にもちょっとした体力づくりの運動や護身術などを学んだ。

ii) 新入生クラス分けテスト

それぞれの学生のレベルに応じたクラスで授業を受けるための、中国語の筆記と面接のテストであった。このテストの結果でクラスが分けられ同じレベルの留学生と授業を受けた。

iii) 日本語学科の学生との交流会

新潟国際情報大学の副班主任の学生が計画してくださった交流会であった。国情生と日本語学科の学生を混ぜた少人数のグループに分かれ、一緒に会話を楽しんだり互いに準備してきた出し物を披露しあって交流を深めた。普段の授業では中国人の学生とは交流できないので、中国人の親友を作ることができる貴重な機会であった。

iv) 河南省旅行

北京師範大学漢語文化学院が主催した修学旅行である。四泊五日の旅行であり、少林寺など河南省の観光地を見学した。また、小学校を訪問し現地の小学生と交流した。この旅行はクラスごとに行動するため、クラスメートと交流を深めることができる機会であった。

v) 文化交流節

今年度から開催された留学生の文化祭であった。各国の留学生が踊りや歌を発表したり、料理を振る舞うなどして自国の文化を紹介した。

vi) 北京の夜

文化交流節と同様、留学生の文化祭であった。文化交流節より大規模な文化祭でありステージで自国の文化を紹介するほかに、このイベントを通して様々な国の人々と交流した。日本人も毎年参加しており、国情生も希望者は参加し沖縄の伝統の踊りであるエイサーを紹介した。

vii) 修了式

12月30日の期末テストをもって今期の授業プログラムが終了し、1月6日の修了式で修了証書が渡された。

5 当初目的・目標への達成度

今回の留学の目的の達成度について、それぞれまとめる。

i) 中国語の語学能力の向上

語学能力についてはHSK (汉语水平考试) によって能力の向上がみられた。留学期間中、HSK4級の試験を受験し、300点中236点(180点以上で合格)という成績で合格することができた。また留学当初は、学んだ中国語がとっさに出てこずコミュニケーションをとることが困難であったが、4か月間中国語を聞いて話す状況に身を置けたことで、会話能力が格段に向上したと感じる。しかし、すべての中国語を理解できるレベルにはまだ至っておらず、これからも中国語の能力向上のため勉学に励み、HSK6級合格と中国人と同様程度の日常会話ができるようになることを目的に努力していきたい。

ii) 国際理解

授業は留学生のみで受けるため様々な国の学生がクラスメートとなった。授業の中では中国語で自国の文化を紹介することが多々あり、様々な国の文化を知り理解を深めることができた。授業や河南省旅行以外にもクラスメートと食事をしたり遊びに行ったりし、互いの国について会話をしたことで考え方の違いを理解することができた。

6 反省・課題

4か月という短い期間ではあったが、毎日勉学に励み中国語の能力を向上させることができた。しかし学生同士の交流会などに積極的に参加することがあまりできず、特に中国人の学生と親交を深めることができなかったことが反省点である。

自身の中国語能力はまだまだ低いため、これからも中国語の勉強を続けて高い水準の中国語を身に付けたい。そしてHSK6級・中国語検定1級の取得を目標に努力を続けていきたい。また留学を通して国際文化の理解を深めることができたので、その経験を活かし国内・国外を問わず様々な国の人々と関わり自身の考えを深めていきたい。

謝辞

今回、北京師範大学にて私たち本学留学生のお世話をしてくださった何玲玲さん、その他大勢の関係者の皆様に深く感謝申し上げます。また、本学の中国留学担当で2016年度前期の授業、留学の現地サポート、帰国後の各種活動への指導を賜りました、佐藤若菜先生、區建英先生には心より感謝いたします。最後に、本学新潟国際情報大学からいただきました奨学金により、本留学が実現し有意義な体験ができたことを心から感謝いたします。

付録：留学日誌

8月29日 月曜日 午前
出発 新潟駅
佐藤若菜先生
内容 <ul style="list-style-type: none"> ・新潟駅からジャンボタクシーで成田空港へ移動、佐藤先生と合流 ・成田空港から飛行機で北京へ移動 ・北京で入国審査 ・北京国際空港からバスで北京師範大学へ移動

移動の所感

東京までの区間をタクシーで移動したため、早朝5時に新潟を出発した。留学先の北京師範大学には午後10時ごろに到着した。私たちのほとんどは初めての海外渡航であり、不安もあるが、これから4か月間一生懸命中国語を勉強していきたい。

9月1日 木曜日 午後
新入生クラス分けテスト 北京師範大学 教二楼
北京師範大学の先生
内容 <ul style="list-style-type: none"> ・授業に向けてのクラス分けテスト ・筆記試験の後、先生二名と中国語での面接試験

試験の所感

筆記はペンインや文法を選択するという問題であった。勉強してきたにもかかわらず、難しい問題もあった。解き終わった人から退室し、続いて面接試験を受けた。用意された中国語を読み上げ、面接官と質疑応答をした。読めない漢字も多く、また質問が聞き取れないなど不安に終わった試験であった。

9月2日 金曜日 午前
入学式 北京師範大学
北京師範大学の先生
内容 <ul style="list-style-type: none"> ・今年度から新たに留学する学生の入学式 ・学部長の挨拶、大学と学部に関する説明

・中国での生活についての説明と注意

入学式の内容

学部長から入学を祝う言葉をいただき、気を引き締めて学習をしていこうという励みになった。生活する上での注意では、北京は自動車やバイクの交通量が多いため気を付けること、またタクシーを利用する際はトラブルを避けるため黒タクシー（認可されていないタクシー）を利用しないことなどが説明された。

9月5日 月曜日 午前

授業開始 北京師範大学教二楼

各クラスの先生

内容

・授業（午前：读写・会話 午後：看報）

授業初日の所感

初日ということもあり、どの授業でも自己紹介が行われた。读写・会話では、新入生クラス分けテストの後発表されたクラスだったが、同じ大学の学生がいたこともあり心強かった。また、自己紹介を事前に準備していたことでスムーズに自己紹介をすることができた。先生は中国語と英語で授業を行うので、授業についていけるように予習と復習を徹底して臨みたい。看報は本学学生のための授業でありアットホームな雰囲気、初日にも関わらず緊張感はそれほど感じなかった。

9月9日 金曜日 午後

北京師範大学日本語学部学生との交流会 主楼

何玲玲さん

内容

・日本語学部の学生との談笑会 ・事前に準備した出し物を互いに発表

交流会の所感

福班主任である、何さんが主催してくださった交流会であった。日本語学部の学生約20人が私たちを歓迎してくださった。この交流会で初めて中国人の学生と交流することができ、日本語と中国語での会話を楽しんだ。出し物の発表では、本学の学生は日本についてのクイズと日本語と中国語の歌を発表した。日本語学部の学生は日本語の歌とダンスを披露

してくれた。交流会後は連絡先を交換した。学習を助け合い、互いに向上できるように頑張っていきたい。

9月13日 火曜日 午後
授業
各クラスの先生
内容 ・午前：聴力 午後：中日文化交流

所感

授業開始2週目であり、授業のペースにも大分慣れてきた。聴力は教科書を見ずにCDを流して内容を聞き取るのだが、読み上げる速さに付いていけず苦勞した。予習を徹底し、新出単語の聞き取りを頑張りたい。中日文化交流では、毎週代表者一人が日中交流に貢献した偉人を紹介する。この日が初めての紹介であった。この日は聖徳太子が紹介されたが、自分が知らないことも紹介されており素晴らしい発表であった。自分の発表の時にも日中関係にどのように貢献したのかに重点をおき調べていきたい。

10月1日～4日
内モンゴル旅行（内モンゴル旅行）
ツアー
内容 ・日程：3泊4日 場所：中国 内モンゴル自治区 ・1日目：草原で乗馬体験、ゲルに滞在。夜はキャンプファイヤーを楽しむ。 ・2日目：クブチ砂漠へ移動、ラクダやバギーに乗るなど砂漠でのレクリエーションを楽しむ。 ・3日目：フフホトへ移動、民族風情園と恐竜博物館を見学。その後、大同へ移動。 ・4日目：是空寺と雲岡石窟を見学、北京へ戻る。

内モンゴル旅行の所感

この旅行は北京市内の病院が主催した日本人向けの旅行であり、本学からは5人が参加した。国慶節ということもあり、移動時間が所定よりもかかってしまうというトラブルにも見舞われたが、北京とはまた違った中国の文化に触れることができた。内モンゴル自治区は北京とは全く違う文化の地域であり、多民族国家である中国を体験することができた。

11月3日～4日

中間テスト 教二楼
漢語文學院の先生方
内容 3日：聴力，会話 4日：読写

中間テストの所感

留学して初めてのテストということもあり、少し緊張した中でむかえた。会話は筆記とは別に口頭試験もあり、授業時間に先生と行った。筆記試験では、ペンインや漢字の書き取り、文法を使用した文章を作成するといった内容であった。しかし、さほど難しいということはなく、授業の復習をしっかりとしたため良い点数を取ることができた。

11月5日～10日
河南省旅行
漢語文學院の先生方、中国人学生
内容 <ul style="list-style-type: none"> ・1日目：寝台列車 ・2日目：少林寺見学 ・3日目：許慎文化園と小学見学，表演見学 ・4日目：開封府見学、BBQとキャンプファイヤーを楽しむ ・5日目：包公司，鉄塔観光 ・6日目：中国文字博物館と殷墟博物院見学、帰京。

河南省旅行の所感

5泊6日という長い修学旅行であった。少林寺では少林寺拳法の実演を観光したが、拳法の型の実演のほかにも瓦割りなど迫力のあるパフォーマンスも見ることができた。また、クラスで行動したことでクラスメートと親しくなり、拙いながらも中国語でコミュニケーションをとることができた。現地の小学校訪問では、私たちは子供たちに温かく迎えられ授業を参観したり、プレゼント交換などで交流した。

11月13日 日曜日
文化交流節
北京師範大学 留学生
内容 <ul style="list-style-type: none"> ・師範大学の留学生による各国の文化紹介

・伝統芸能の発表、民族衣装の展示、各国の料理を試食

文化交流節の所感

私は師範大学日本人会の方たちと沖縄の伝統芸能である「エイサー」を踊った。その後、ボランティアとしてお好み焼きとチョコバナナを作り販売した。このイベントでは世界の様々な文化を体験できた。

12月18日 日曜日 夜

北京之夜

北京師範大学 留学生

内容

・各国の留学生による伝統芸能の披露、異文化交流

北京の夜の所感

文化交流節と同じような内容だが、こちらのイベントは規模が大きく学生だけでなく、外部の人たちも見に来ていた。私たちはこのイベントに向けて2か月間エイサーを練習し披露した。失敗した場面もあったが全員で楽しく踊り、日本の文化を紹介することができた。また、参加者同士で写真を撮るなどして様々な人と交流した。

12月29日~30日

期末テスト

北京師範大学の先生

内容

・1日目：会話 2日目：读写

期末テストの所感

テストは中間テストと同じ方式で行われたが、中間テストよりも範囲が広く、またテスト内容も難しいと感じた。とくに、聴力のテストでは流される会話が複雑で長くなり、さらには1回しか放送されなかったため解けた問題が少なく点数を伸ばすことができなかった。しかし、留学当初と比べると聞き取れる単語は増加し、文法の理解力も格段に向上したと自身でもわかるほど成長出来たと感じた。

写真データ

1. 北京師範大学日本語学部学生との交流会



2. 万里の長城



3. 天安門と故宮



4. 内モンゴル旅行



5. 河南省旅行



6. 北京の夜



7. クラスメートと

